
雪に想うこと

蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪に想うこと

【Nコード】

N1198B

【作者名】

蒼

【あらすじ】

雪を見る度にあなたのことを想う

ふわっ

今年もやってきた。

雪の季節。

空から白いものがたくさん落ちてきて

とっても綺麗で

けどすぐなくなっ

溶けて

儚くて

悲しくて

昔のことを思い出す。

私がまだ幼くて

恋をしていて

毎日好きな人を見ているだけで楽しくて。

そのぐらい幼くて

その人のことを考えるだけで

嬉しくて

幸せで

そんな毎日が大好きで

本当に幼くて

その人が私に

『好き』

って言うてくれたのもこの位の時期だった。

その時すごく嬉しくて

もう死んでもいい。

なんて思っ

馬鹿みただけど

この幸せがいつまでも続くと思ってた。

毎日繰り返す

『おはよう』

とか

『今日どうだった。』

とか

そんな会話のひとつひとつが嬉しくて

大切に

あなたの仕草のひとつひとつが愛しくて。

ちょっとした仕草も目について。

寝癖をきにしてたりすると可愛くて

つい笑ってしまったりして。

するとあなたが

『なんだよ。』

ってちょっと怒ったように言って。

それがまた可愛くて。

私は

『べっつにー。』

なんて言っ

楽しかった。

それだけで心が踊っていた。

あなたと付き合いだして一年が過ぎた。

告白してもらってからもう一年なんて

早いものだと思っていた。

いろんなところへ遊びに行っ

笑っ

喧嘩とかもして

いろいろあつた。

私はこれが永遠に続くん

この世に永遠なんてないのに。

十二月。

今日は朝から曇りでも寒かった。

（雪、降るかな　　）

そう思つて家を出たのも覚えてる。

その日は学校が休みで

だからあなたと遊びに行く約束をして

とっても楽しみにしていて

駅前の時計台の辺りで待ち合わせしてた。

待ち合わせの五分前。

あなたが道路の向かい側に見えて

それが嬉しくて

信号が

赤だったのに

見てなくて

あなたに駆け寄ろうとした。

車が

私に突っ込んできて

音が消えた。

あなたが何か叫んで

衝撃

何かがぶつかった。

と言うより押された。

ガヤガヤと周りの声が聞こえてきた。

誰かが叫んだ。

『救急車！救急車を呼んでくれ！』

私の目の前には

血の海が広がっていた。

その真ん中には

あなた

服は血でじつとりと濡れて
ところどころ裂けていて

いたいたしくて

『いやー
』

そのまま気を失った。

空からは雪が降り始めていた。

目を覚ましたのは病院だった。

白い実感のわからないような壁

窓はしっかりと閉じられていて外では雪が音もたてずに降り積もっていた。

ベットの横には両親

あなたは

いない

私は飛び起きた。

『あの人は ？』

両親は泣き出した。

『彼はあなたの代わりに車にひかれて 』

信じたくなかった。

これは親が考えたくだらない冗談だと思ったかった。

けどあなたはいなくて

悲しいはずなのに泣けなくて

数日間何もやることができなかった。

一ヶ月位して

『もうあなたはいないんだ』
って急にわかって

すごく泣きたくなって

泣いた

一生分の涙を使い切ったと思う位

泣いた

そして今。

あんなことがあったのに私は別の人の隣にいる。

あの人を忘れたわけじゃない。

というか忘れない。

雪を見る度に思い出す。

あなたと過ごした日々。

『おい。行くぞ。』

今の彼がいつまでも雪を見てる私に言った。

『うん。今行く。』

笑顔で答えた。

私はあなたを忘れない。

けど前を向いて歩こうと思う。

だからあなたも忘れないで
もう一度会えるその時まで。

（後書き）

今回はいつもよりちょっと長くなりました。けどやっぱり短編です
（・・・）また感想・文句等よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1198b/>

雪に想うこと

2010年10月26日09時34分発行